

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年4月12日

(作成者) 楠本敏子 (運営委員)

平成17年度 第1回 まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年04月12日(木) 18:30~20:55

場所：まつど市民活動サポートセンター 第2会議室

出席者：(運営委員) 岩橋・金子・星野・三沢・楠本 (コーディネーター) 木村・小山・藤沢 (事務局) 岩崎

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：三澤

議事記録：楠本

板書：岩崎

・藤沢コーディネーター退任挨拶
および木村コーディネーター着
任挨拶

議題1：前回議事録(03月10日
開催)の確認

議題2：前回からの継続審議事項

1) 早期予約の取り扱い

2) サテライト構想について

議題3：運営委員会の組織の見直
し

議題4：情報部会の報告

議題5：交流部会からの報告

1) 機関紙発行の件

2) シンボルマスコットネーミ
ングの件

議題6：4月以降のサポートセン
ターの勤務体制

議題7：「Let's 体験」企画報告

議題8：その他

議事の概要

議題1：前回議事録(03月10日開催)の確認

運営委員会通信(第10号)を確認

議題2：前回からの継続審議事項

議題8：その他 で討議

議題3：運営委員会の組織の見直し(楠本委員)

➤ 運営委員会発足後1年を経過し、現状に見合った組織の見直しが必要と思われる。部会組織、その担当内容および所属者等の再考をお願いしたい。ホームページ開設を終えた情報部会の今後、また機関紙定期発行を控え増員なき運営委員会での実務担当の形についてもご討議頂きたい。

➤ 増員できないことで、今後どうするか。スリム化するか。

➤ 増員は公募だけでなく、委員それぞれの心掛けでもできる。

➤ 情報部会では、交流部会と一緒にしても良いという話が出た。

➤ 運営委員会も臨時開催が多くなり、部会と併せるとかなりハードになってきた。部会の数も検討すべきだ。

➤ イベントへの参加も増えた。

➤ 運営委員会に広報の機能を持たせるなら、新たな部会を作るより情報部会と交流部会が一緒になって担うほうが良いと、言うこともできる。

➤ 運営委員会は隔月の開催だが、臨時が入り、毎月のようにある。民営化特別部会との合併も考えては、

➤ 運営委員会では毎回2時間の会議で積み残しが出る。民営化特別部会も同様だ。一緒になったのでは到底無理だ。

➤ 毎月委員会をしているが、ランドデザイン、サテライト構想も未だ完成していない。積み残しが多い。

➤ 実働部隊がいないと、アイデアを出す事で自分の首を絞めることになる。

➤ 運営委員会を毎月開催、民営化特別部会を隔月ではどうか。

➤ 運営委員会が隔月だと、上位決定機構だけに支障があった。部会の審議事項もなかなか決定できない。

➤ サテライト構想の前段階として、核になる市民センターを選び、運営委員会との交流、意見交換をしなければならないのでは。

➤ やるべきではあるだろうが、今でも手一杯の状況だ。

➤ サポートセンターが真に機能していけば、自ずと他の地域がついてくるのでは。

➤ ランドデザインだけでなく、アクションプランを作っていないといけない。

➤ 検討委員会の提言書こそランドデザインだ。それを実現するプランが必要。

➤ サポートセンターのあり方、つまりランドデザインとは、民の力でサービスの向上を目指すことに尽きる。指定管理者はこの条件を満たさなければならない。

➤ 民営化部会を隔月にし、情報部会と交流部会と一緒にすれば、かなりスリムになる。

➤ 運営委員会は密度の濃い討議をしていない。単に報告事項で終わっている。

➤ 運営委員会での討議を、部会に下ろして深めるのがいい。

➤ 19年度に指定管理にするなら、18年6月に議会に提出しないと予算が間に合わない。9月議会で指定管理者を議決。予算は10月に、相手の企画によって決まる。

確認されたこと

議題1：前回議事録(03月10日
開催)を確認

議題2：議題8その他で、討議

議題3：運営委員会の組織の見直
し

➤ 現状に添って組織を見直す。

➤ 部会の統合や開催日に付き
検討。

➤ 運営委員会議案を部会で深
める。

➤ ランドデザインはあるに
等しい(検討委員会提言書)
作るべきはアクションプラン。

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年4月12日

(作成者) 楠本敏子 (運営委員)

確認されたこと

議題4：情報部会の報告

- ホームページ運営委員会コーナー(仮称「運営委員のつばやき」)を委員が担当。

議題5：交流部会からの報告

- 1) 機関紙発行の件
 - 4月中に仮称「運営委員会だより」を発行。
- 2) シンボルマスコットネーミングの件
 - 4/15 広報で名前公募。応募を呼びかける。

議題6：4月以降のサポートセンターの勤務体制

- ボランティア担当室が本庁へ移転。コーディネーター(6名予定)が交代で常駐する。室員は毎日2時から3時くらいの間サポートセンターで執務。
- コーディネーターの業務に、使用料の収納、管理が加わる。

議題7：「Let's 体験」企画報告

- コーディネーターより企画報告。

議題8：その他

- 1) 早期予約の取り扱い
 - 間接公用は一般と同じ2ヶ月前の予約とする。
 - 公用の代替予約を止める。
- 2) サテライト構想について
 - 継続審議

議事の概要

➢ 開催日

1. 民営化特別部会が月曜のためか変更が多い。隔月第2火曜日だろうか。
2. 運営委員会、企画部会は今までどおり。
3. 情報・交流合併部会は調整を待つ。

- 2名の委員が欠席の為、議題3の決定は5月臨時会に。

議題4：情報部会の報告(金子委員)

- ホームページの運営委員のコーナーを、運営委員7人が交代で担当してほしい。
- コーナータイトルは仮に「運営委員のつばやき」。

議題5：交流部会からの報告(金子委員)

1) 機関紙発行の件

- 昨年の軌跡を纏めた、仮称「運営委員会だより」を出す。
- 4月中に200~300枚くらいを作る。
- 発行元をいれるべきでは。
- 校正は4/20までに金子委員へ。

2) シンボルマスコットのネーミングの件

- 4/15 広報に名前公募のお知らせ。
- 知人に応募を呼びかけて欲しい。

議題6：4月以降のサポートセンターの勤務体制(星野委員)

- ボランティア担当室が本庁へ移転し、常駐職員がいなくなる。
- コーディネーター(6名予定)が交代で常駐する。
- コーディネーターの業務に、使用料の収納、管理が加わる。
- 職員は銀行納付業務のため毎日2時から3時過ぎまでサポートセンターに赴く。
- 現金の取り扱い上、故意及び重大な過失については当人に責任が及ぶ。軽過失はこの限りではない。組織としてボランティア担当室が責任を負う。
- 重大な過失と軽過失の相違は。
- 重大な過失とは、例えば長時間の放置による現金の紛失。軽過失は、例えば金庫の鍵の掛け忘れによる紛失である。
- 出納員としてのコーディネーターの責任は。
- 指導不足である場合は、管理者の責任である。
- 出納業務はコーディネーター本来の仕事ではない。専任の出納員を置いては。
- 現在、その予定はない。

議題7：「Let's 体験」企画報告(木村コーディネーター)

- コーディネーターより企画書に基づく報告。

議題8：その他

1) 早期予約の取り扱い

- 直接公用は市の直接利用。間接公用は支援する団体のため市が公用で押さえるもの。
- 間接公用は一般のルールに合わせ、2ヶ月前の予約とする。
- 公用のうち、悪天候に備えた代替予約は止める。
- 間接公用は社会福祉協議会が多い。運営委員会で対応を確認できれば伝える。
- 交流部会で上ったランニングトラック利用ルールだが、利用者同士で調整している。

2) サテライト構想について

- 次回の継続審議とする。

以上

連絡事項

次回臨時運営委員会

05月10日(火)18:30から開催

場所

サポートセンター第2会議室

担当

岩橋、川瀬

平成 年 月 日

まつど市民活動サポートセンター運営委員会 会長

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年05月10日

(作成者) 運営委員 岩橋秀高

第2回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年05月10日(水) 18:30から21:00

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

出席者：(委員) 金子・楠本・三沢・半田・川瀬・岩橋 (コーディネーター) 山崎、(事務局) 伊原

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：(運営委員) 川瀬

議事記録：(運営委員) 岩橋

板書：伊原

議題1：確認と報告事項

議題2：年度方針の検討

議題3：組織問題の検討

議題4：問題点の検討

議題5：交流部会報告

議題6：その他

配布資料

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

まつど市民活動サポートセンター運営委員会の検討事項(1. 年度方針の検討 2. 組織問題の検討 3. 問題点の検討 運営委員会・年間活動スケジュール案)

運営委員会だより第1号案、マスコットのネーミング応募リスト、2005年度 サポートセンター年間事業計画案

確認されたこと

1. 運営委員会は月例会とする
2. 運営委員では「事務局から前月定例報告」「サポートセンターのスタッフ会議コーディネーター会議の概要報告」「パートナーシップ条例策定委員会の情報報告」「事業計画の個別計画進捗状況報告」を行うこと
3. 運営委員会のスケジュールを確認
4. 専門部会員の増強を進める
5. 専門部会は「民営化特別部会(次回の民営化特別部会で検討)」「交流部会」「広報部会」「企画部会」とする
6. プレ見本市を次回見本市実行委員会に提案する

議事の概要

議題1：確認と報告事項

(1) 本日の議事進行：川瀬委員、議事録 岩橋委員

(2) 議事録確認：第1回運営委員会

議題2：年度方針の検討

金子委員より資料に基づき説明

運営委員会の役割 自ら働く運営委員会から機能(企画と組織化)する運営委員会へ

サポートセンターの事業計画に対してそれをバックアップする運営委員会の事業計画があるべき

運営委員会には情報交換と共有のため職員・コーディネーターは全員出席するべきである

スケジュールの特にプレ見本市に関して、「実施すべき事業と将来に向けての事業を分けるべきである」「現体制では実働部隊がないため無理である」「運営委員ではなく専門部会の委員なら定期会議に拘束されないので集まりやすいのではないか」「活動しながら巻き込んでいったらどうか」「運営委員が地域に出ていき市民の声に接する活動である」

いろいろ意見がでそうになったので問題点の議題で再討議とする

協働事業が決まったので運営委員会が支援する必要があり、スケジュールに入れる必要がある

運営委員会に関して「事務局から前月定例報告をすべきである」「サポートセンターのスタッフ会議、コーディネーター会議の概要報告をしていただきたい」

「パートナーシップ条例策定委員会の情報も報告がほしい」「個別計画に運営委員がかかわれるよう進捗状況も報告してほしい」「コーディネーターの担当表を提出してほしい」

運営委員会は毎月定例会議として開催する

6月運営委員会では協働事業の協定に関して報告し、運営委員会の支援について討議する、交流部会は利用者懇談会をワークショップ形式で行いたい

7月運営委員会では来年度事業計画を策定する

議題3：組織問題

交流部会と情報部会の統合案もあったが、人の問題とは切り離して、交流部会は存続させ、情報部会を広報部会とする

広報部会で「運営委員会だより」を担当し、サポセンニュースレターの特別号として年間3~4回出していこう

いきなり運営委員会の増強は難しいことが分かったので、専門部会員を増強していこう 方法としては広報、口コミ等有効な方法を検討する

民営化特別部会のあり方については次回民営化特別部会で検討する

議題4：問題点の検討

人が集まる場を多く設けて専門部会員を集めよう

プレ見本市について「サテライト構想のアクションプランである」「運営委員会として地域の意見を汲み上げていく必要がある」「見本市の企画内容を変更すべきである」「2月の見本市に商店や農家を呼んだら」「5月24日の見本市の実

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年05月10日

(作成者) 運営委員 岩橋秀高

確認されたこと

7. 運営委員会の事務局機能の強化のため「議題は当番運営委員が7日前に事務局伊原氏にメールする～メールには件名【運営委員会】をいれる」
 8. 6月運営委員会では協働事業の協定に関して報告し、運営委員会の支援について討議する、
 9. 7月運営委員会では来年度事業計画を策定する
 10. マスコット名、「めでるくん」か「あゆむん」かの決定はコーディネーターの投票に委ねる
 11. 広報部会で「運営委員会だより」を担当し、サポセンニュースレターの特別号として年間3～4回出していこう
 12. コーディネーターの担当表を提出すること
- 以上

次回運営委員会議題

1. 「事務局から前月定例報告」
「サポートセンターのスタッフ会議、コーディネーター会議の概要報告」
「パートナーシップ条例策定委員会の情報報告」「個別計画進捗状況報告」
2. その他

議事の概要

- 行委員会に運営委員会として趣旨説明し提案していこう、三沢委員出席可」
運営委員会の事務局機能の強化について
「伊原浩樹氏を専任担当としてもらいたい」「議題は当番運営委員が7日前に事務局伊原氏にメールする～メールには件名【運営委員会】をいれてほしい」
- 議題5：交流部会報告
「運営委員会だより」はマスコット名決定後発行する
マスコット名は投票結果「めでるくん」と「あゆむん」が同数のため、決定はコーディネーターの投票に委ねる
- 議題6：その他
なし
以上

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年6月20日(確定版)

(作成者)半田勝利(運営委員)

平成17年度 第3回 まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年6月7日(火)18:30~21:00

場所：まつど市民活動サポートセンター 第2会議室

出席者：(運営委員)岩橋・金子・星野・三沢・楠本・川瀬・半田 (コーディネーター)小山・桑田 (事務局)なし

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：星野

議事記録：半田

板書：桑田

議題1：サポートセンターからの報告

議題2：コーディネーター会議の概要報告

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

議題4：個別計画進捗状況報告

1) レッツ体験

2) プログラム作成WS

議題5：専門部会組織の再考

議題6：運営委員会議題の提案方法

議題7：利用者懇談会

議題8：サポートセンターパンフレット

確認されたこと

議題5：部会組織の再考について
情報部会は広報部会に名称を変更する。

部会のメンバーは次の通り。

広報部会：川瀬、楠本

交流部会：金子、三沢

企画部会：岩橋、星野、半田

部会メンバーの増員について、次回検討する。

議事の概要

議題1：サポートセンターからの報告

1) 平成17年度第1回市民活動推進県・市町村連絡会議について、星野委員より報告あり。
・市川市の1%支援制度について：83団体6,700万円の申請に対し、納税者22万人の3%弱6,266名が応募し、2,900万円の交付となった。

・市原市の事例：県・市町村・NPOがともに築く地域社会事業

・和田町の事例：ネイチャースクールわくわくWADA

・松戸市の事例：パイロット事業として進めているサポートセンターの協働提案事業について、星野委員が発表したこと。

➢ 松戸市の協働提案事業については関心が高く、6/18(土)のセミナー「市町村のNPO活動支援施策の学習会」でも発表いたします。

2) コーディネーター報告(小山コーディネーター)

・京葉ガス「利用者説明会」の開催：ガスレンジの無償提供と、利用者説明会の開催についての申入れがあり、企業の社会貢献活動としてどのような協働が組めるかを検討している。

・「ふれあい広場」の早期予約について：間接公用の場合、多目的ホールは対象としていないため、準備期間のこともあって早期予約として有料の申込みといたします。(承認)

議題2：コーディネーター会議の概要報告

小山コーディネーターより コーディネーター会議、スタッフ・コーディネーター業務についての報告あり。

1) コーディネーター会議議事メモ

➢ 「矢切ママ」の公用使用事例について、サポートセンターの施設としての目的に於いて、公用のルールを明確にすること。

➢ また、民営化に向けて(自立というテーマの中で)、提案し方向性を探る必要がある。

2) スタッフ・コーディネーター業務：業務分担の説明

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

星野委員より条例案策定委員会(第7回)について報告あり。

1) 4つの検討部門設置について

協働事業協議会 エンパワーメント マッチングファンド 行政窓口

2) 第1部会とワーキングチームの名簿

➢ スケジュールとしては、条例案の提言が10月、これを受けて条例化し行政案として平成18年3月議会に提出の予定である。

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年6月20日(確定版)

(作成者)半田勝利(運営委員)

連絡事項

次回運営委員会

7月5日(火)18:30から開催

場所

サポートセンター第2会議室

担当

金子、三沢

議事の概要

議題4：個別計画進捗状況報告

小山委員より「レッツ体験!!2005」及び「ボランティア受入プログラム作成WS」についての報告あり。

1) レッツ体験のプログラム・スケジュール

- 昨年は27団体28プログラムで91名の参加があり、今年は33団体34プログラムで参加定員100名を予定している。
- 協力として社協の支援があり、ボランティア保険の加入で便宜を図っていただきます。

2) ボランティア受け入れプログラム作成講座

第1回 5/17(火) 13団体が参加

第2回 5/25(水) 8団体が参加

議題5：専門部会組織の再考

確認事項の通り、情報部会は広報部会とし、部会のメンバーについても一部変更することといたしました。なお、部会メンバーの増員について次回再検討することといたします。

- 運営委員会だよりの発行は、サポセンニュースレターの中にコーナーを設けた方が良いのでは。
- 情報部会と交流部会は、合併して情報交流部会としてはどうか。
- 広報部会の業務内容は、ホームページ、広報発信、運営委員会だよりの等。
- 専門部会の増員提案：人的管理の作業が増える心配もある。

議題6：運営委員会議題の提案方法

- ・星野委員より提案の「議題提案等の方法」について審議し、承認いたしました。
- ・運営委員会進行の輪番を決定いたしました。(臨時部会は当該月の輪番が担当)

議題7：利用者懇談会

- ・本件は、6/21(火)の民営化特別部会の際、協議することといたします。
- コーディネーターとしては現行の3人体制維持の運営体制の中で、これ以上の役割分担には無理があります。
- 7/16(土)の実施予定は、コーディネータの協力が難しい。

以上

平成 年 月 日

まつど市民活動サポートセンター運営委員会 会長

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（平成 17 年度第 4 回）

発行日：2005年7月20日

（作成者）三沢和弘（運営委員）

平成 17 年度第 4 回 まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成 17 年 7 月 5 日（木）18:30~21:00

場所：まつど市民活動サポートセンター 第 2 会議室

出席者：（運営委員）岩橋・金子・三沢・楠本・川瀬（コーディネーター）中村（事務局）岩崎

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：金子

議事記録：三沢

板書：岩崎

議題 1：サポートセンターからの報告

議題 2：コーディネーター会議の概要報告

議題 3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

議題 4：個別計画進捗状況報告

1) レッツ体験

2) 協働事業

議題 5：利用者懇談会開催

議題 6：NPO 見本市実行委員選出

議題 7：サテライトのあり方、進め方

議事の概要

議題 1：サポートセンターからの報告

1) 掲示コーナー新設について

・松戸駅東西自由通路にサポートセンター専用掲示コーナーを新設

2) 早期予約について

・協働事業の 3 団体について優先する。

議題 2：コーディネーター会議の概要報告

・第一水曜日がコーディネーター会議、第三水曜日がスタッフ会議

・レッツ体験についての日程調整を行った。

議題 3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

1) 条例案策定委員会（第 8 回）の討議内容の説明

・事例視察は、横浜市、アリスセンター、大和市を視察する

2) パートナーシップ条例骨子（渡辺私案）についての説明

・その骨子は、1. 条例のねらい 2. パートナーシップ協議会 3. 横断的行政窓口 4. マッチングファンド 5. エンパワーメント 6. その他 からなる。

・私案は、パートナーシップ協議会の法的性格、横断的行政窓口など、まだ議論の余地が残されている。運営委員会としても傍聴するなど条例策定の進捗状況を見守る。

・策定委員会では渡辺私案にたいしての対案を提出、議論し、8 月末に骨子をまとめる予定。

議題 4：個別計画進捗状況報告

1) レッツ体験

・7 月 5 日現在、70 名の申し込みがあり、リピーターも 10 名以上で、昨年よりも多く、最終 100 名の参加を目標にしている。

・今回は千葉商科大学の協力を得られた。

・7 月 9 日のオリエンテーションは、ファシリテーター菅さんを中心として「感じて考える」をテーマとする。

・オリエンテーションには運営委員会から岩橋委員、金子委員が参加する。

2) 協働事業

・カウンセリングルーム WISH「コミュニケーション能力講座」の説明

・ぱそこん 119「パソコン無料相談会」の説明

・ヒューマンパフォーマンス研究所「高齢者うんどう習慣化教室」の説明

議題 5：利用者懇談会開催

・団体間の交流、サポートセンターの活性化を目的として利用者懇談会を開催する。

・開催は 9 月 17 日（土）14 時~17 時。30 人ぐらいの参加を想定し、ワークショップ形式で展開する。

・開催は 9 月 1 日のまつど広報で知らせる。

議題 6：NPO 見本市実行委員選出

・昨年度は交流部会として実行委員会への参画となったが、今年度は当初より、運営委員会としての参画とする。

・見本市は市民への広報が大きなポイント。広報部会からの参画を求める意見もあり、今年度の実行委員として川瀬委員を選出する。

議題 7：サテライトのあり方、進め方

・次回運営委員会に持ち越す。

確認されたこと

* レッツ体験のオリエンテーション（7 月 9 日）には岩橋委員と金子委員が参加する。

* 利用者懇談会開催 9 月 17 日。松戸広報 9 月 1 日掲載

* 今年度の NPO 見本市実行委員に川瀬委員を選出。

* サテライトのあり方については次回運営委員会に持ち越す。

連絡事項

次回運営委員会

8 月 2 日（火）18:30 から開催

場所

サポートセンター第 2 会議室

担当

楠本 川瀬

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（平成17年度第4回）

発行日：2005年7月20日

（作成者）三沢和弘（運営委員）

平成 年 月 日

まつど市民活動サポートセンター運営委員会 会長

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年8月2日

(作成者) 楠本敏子(運営委員)

平成17年度 第5回 まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年8月2日(火) 18:30~20:45

場所：まつど市民活動サポートセンター 第1会議室

出席者：(運営委員) 岩橋・金子・半田・星野・三沢・楠本 (コーディネーター) 中村・木村 (事務局) 伊原

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：半田(川瀬欠席の為)

議事記録：楠本

板書：伊原

議題1：サポートセンターからの報告

議題2：コーディネーター会議の概要報告

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

議題4：個別計画進捗状況報告

議題5：条例案策定委員会のエンパワメントの件

議題6：サテライト構想のあり方、進め方

議題7：その他

議事の概要

議題1：サポートセンターからの報告(中村)

1. コーディネーターの長期休暇

➢ 資料により説明。休暇中は会議への出席、連絡等ができないなど。

2. 早期予約

➢ 資料により説明。協働提案事業「高齢者うんどう習慣化教室」(ヒューマンパフォーマンス研究会)の優先予約を承認。

議題2：コーディネーター会議の概要報告(中村)

➢ 資料により報告。

➢ インターンシップで中央学院大学3年生1名をセンターに受け入れ等。

➢ 利用者懇談会(9/17)の関わりを、人数も含め、8/3のコーディネーター会議で確認して欲しい。

➢ 利用状況は如何か。

➢ 有料スペースは集計可だが、リーススペースは確認できない。課題だ。

➢ 次回に利用状況を報告する。

➢ インターンシップの流れ、役割はどのようになっているか。

➢ 市の人事課から依頼される。昨年はサポセンニュース編集やレッツ体験取材等に関わってもらった。

議題4：個別計画進捗状況報告(中村)

1. 見本市(資料)

➢ 実行委員会が12名で始まった。

➢ 8/19が第2回委員会。

➢ 委員は広報募集および第1,2回参加団体より。

➢ 企画は今後の委員会で決定。

2. レッツ体験(資料)

➢ 7/9のオリエンテーションが「地域新聞」に掲載された。岩橋、金子、川瀬、三澤が参加した。

➢ 既に活動が始まっており、現在の参加者は117名。今後も希望者がいれば可能な限り受け入れる。

➢ オリエンテーション参加者の感想

・ 中高生とのコミュニケーションが図れ良かった。

・ ファシリテーター菅さんが上手い。

・ プレゼンテーションが中高生向けではない。学生へのアプローチにもっと工夫が必要では。

・ 大学生ファシリテーターが機能していない。事前レクチャーが必要。来年の課題に。

・ マッチングはもっと簡素化できるのでは。

・ 大人と大学生のアイスブレイキングが上手かった(進行が上手い)。

・ 参加者が自然とファシリテーターになっていった。

・ 会場の雰囲気は全体ファシリテーターの色が出る。

・ 参加者は昨年より多く、リピーターも多い(プログラムがよく対応できた)。

資料

コーディネーターの8月・9月のローテーション

早期予約

スタッフ会議概要

松戸市パートナーシップ条例案策定委員会(第9回)次第

パートナーシップ条例策定スケジュール

レッツ体験(7/9報告・参加お礼・地域新聞掲載コピー・現在の申し込み者数・8/27お誘い)

見本市実行委員会始まる

松戸市パートナーシップ条例(案)5.エンパワメント

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年8月2日

(作成者) 楠本敏子 (運営委員)

確認されたこと

- 議題1:** サポートセンターからの報告を確認 (早期予約を確認)
- 議題2:** コーディネーター会議の概要報告を確認 (利用者懇談会コーディネーター役割分担の確認を依頼)
- 議題4:** 個別計画進捗状況報告を確認
- 議題3:** パートナーシップ条例案策定委員会情報報告を確認
- 議題5:** 条例案策定委員会ワーキングチーム (エンパワーメント) の骨子案を確認 (運営委員会の方向性を検討)
- 議題6:** 次回審議
- 議題7:** 今後の予定参照

以上

今後の予定

次回運営委員会

9月6日 (火) 18:30 から開催

場所

サポートセンター第2会議室

担当 (進行・議事メモ)

岩橋、星野

年度末の開催予定

- ・ 1月 1/10 第2火曜日
- ・ 2月 2/07 第1火曜日
- ・ 3月 3/07 第1火曜日

以上

議事の概要

- ・ 今年はコーディネーターが原則ファシリテーターに入らないようにしたのもよかった。
 - 8/27 (10:00 - 12:00) のふりかえりの会に可能な範囲で参加を。
 - 9月には団体のふりかえりの会も企画したい。
 - リスクマネジメントとは何か。
 - 受け入れ団体によっては事故が想定され、その対応の共有。
- 議題3:** パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告 (星野)
- 資料 により説明。
 - 委員長私案へのワーキングチーム (以下WT) の意見を元に議論。
 - 今後は7/31に提出したWT骨子案をもとに委員会骨子案がつくられ8/8の委員会で議論して9/12委員会で中間骨子とする。関係者説明、パブリックコメント等が予定され、12月最終答申、そして行政案、議会上程 (3月目標) となる。
 - 今後、基金や予算との整理が必要になるかもしれない。
 - 議会への経過説明はどのようなものか。答 現在の検討経過 (4つの論点) 行政の意見の概要、背景、スケジュール等。
 - 3月に、条例・予算・基金は同時に制定されるのか。答 目指している。
 - 説明への反応はどのようなものか。答 判りづらい (横文字等) など。
 - なぜ条例か。答 役割・責任の明確化。
- 議題5:** 条例案策定委員会のエンパワーメントの件 (半田)
- 資料 (WT骨子案) により説明。
 - エンパワーメントの手段として、協議会、基金、窓口を位置づけた (WT案)。
 - 今後のフォーラム等に運営委員会として参画すべきでは。
 - サポートセンターの位置づけが明文化されていない。
 - パートナーシップ条例とサポートセンター条例の関係が不明。
 - 民営化グランドデザインの検討に組み込むべきでは。
 - 運営委員会の方向性は、いかなるものか。
 - グランドデザインを公定化するか。例えば指定管理者の募集要項作成。
 - グランドデザインのためのフォーラム等を開催してはどうか。
 - 民営化特別部会で検討する。
- 議題6:** サテライト構想のあり方、進め方
- 次回の審議とする。
- 議題7:** その他
- 開催予定の確認
 - ・ 1月 1/10 第2火曜日
 - ・ 2月 2/07 第1火曜日
 - ・ 3月 3/07 第1火曜日

以上

平成 年 月 日

まつど市民活動サポートセンター運営委員会 会長

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第6号）

発行日：2005年09月13日

（作成者）運営委員 岩橋秀高

第6回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年09月06日（水）18：50から20：40

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

出席者：（委員）金子・楠本・三沢・星野・半田・川瀬・岩橋（コーディネーター）山崎、（事務局）なし 傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：（運営委員）川瀬

議事記録：（運営委員）岩橋

議題1：確認事項

川瀬委員の運営委員会欠席の件他

議題2：定例報告

(1)サポートセンターからの報告

(2)コーディネーター会議の報告

議題3 パートナーシップ条例骨子案につ

い検討

議題4：各専門部会報告

議題5：その他

配布資料

第5回運営委員会議通信、サポートセンター時間帯別利用状況、月別利用人員表、使用料集計表利用状況、各事業報告（レッツ体験、第3会NPO・市民活動見本市実行委員会報告、協働事業）パートナーシップ条例骨子案、企画部会（協働提案事業における評価フロー、協働事業自己評価チェックシート、事業評価チェックシート）広報部会（9月度広報部会）交流部会（利用者懇談会の開催ご案内）

確認されたこと

1. 川瀬委員の約3ヶ月の運営委員会欠席について、他の運営委員がカバーする。
2. パートナーシップ条例骨子案に関して、パートナーシップ条例策定委員会第1部会長宛に運営委員会から質問状を出す。その案は半田委員が作成し、臨時運営委員会で確認する。
3. 協働事業の評価方法について企画部会の提案を承認 以上

次回運営委員会議題

1. 臨時9月20日5時半から6時半
2. 運営委員会は10月4日6時半～8時半、繰越議題(1)サテライト構想(2)運営委員会委員の募集
担当：金子委員、三沢委員

議事の概要

議題1：確認と報告事項

(1)本日の議事進行：進行川瀬委員 議事録岩橋委員

(2)議事録確認：第5回運営委員会

(3)川瀬委員運営委員会欠席の件

川瀬委員の個人的事情により、運営委員会への出席が今後約3ヶ月難しくなるという説明があり、やむを得ない事態と了承した。

その間、他の運営委員会が川瀬委員の役割をカバーすることとする。

広報委員会は出席できる時だけ出席して欲しい。

見本市の実行委員は金子委員が交代する。

議題2：定例報告

(1) サポートセンターからの報告

フリースペースの利用報告をキチンと取る。そのために張り紙などの措置を講じることとする。

時間帯別利用状況、月別利用人員表、使用料集計表の説明あり、いずれも向上が確認できる。ただ夜間の利用は依然として少ない。

(2)コーディネーター会議報告

別途資料について説明～特に質問はなかった。

議題3：パートナーシップ条例骨子案について

星野委員から説明があり、議論した。

その結果運営委員会を代表して半田委員がおこなった提案が無視されていることから、運営委員会からパートナーシップ策定委員会の第1部会長宛に質問状をだすことが提案された。

議論の末、挙手にて採決

賛成：金子、三沢、川瀬、岩橋の4票

反対：星野、楠本の2票

棄権：半田の1票

という結果となり、提出することに決定した。

質問状のたたき台は半田委員が作成する。

尚、検討は次回9月20日の民営化特別部会の前の5じ半から6時半までを臨時運営委員会として、そこで検討する。

議題4：各部会報告

(1)企画部会～協働事業の評価方法について提案。意見があれば半田委員、岩橋委員まで質問する。

(2)広報部会～「委員のつぶやき」を出来次第送ること。

(3)交流部会～利用者懇談会での「たのたのじゅく」新井氏の立場は？

専門部会員としての位置づけになる。

議題5：

(1)サテライト構想

(2)運営委員会委員の募集について

は次回議題とする。

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第6号）

発行日：2005年09月13日

（作成者）運営委員 岩橋秀高

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信

発行日：2005年09月20日

(作成者) 運営委員 岩橋秀高

平成17年度第7回まつど市民活動サポートセンター運営委員会(臨時)

日時：平成17年09月20日(水)17:30から18:50

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

出席者：(委員)金子・三沢・半田・星野・岩橋 (コーディネーター)小山(事務局：)伊原

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：(運営委員)岩橋

議事記録：(運営委員)岩橋

議事録板書：(事務局)伊原

議題1：第6回運営委員会通信確認

議題2：パートナーシップ策定委員会第1部会長への質問状

議題3：早期予約の件

配布資料

第6回運営委員会通信確定版

パートナーシップ策定委員会第1部会長への質問状案

早期予約「一生涯スポーツが楽しめる極意伝達講習会」

議事の概要

議題1：確認と報告事項

(1)本日の議事進行：議事録 岩橋委員

(2)議事録確認：第6回運営委員会通信

議題2：パートナーシップ策定委員会第1部会長への質問状

(1)星野委員から

運営委員会には他の委員会の運営に口を挟むことはできない

そういう権限は運営委員会にはない

権限外のことを決議しても無効である

運営委員会の権限はサポートセンターの運営に関して審議することである
従って運営委員会の名前で質問状をだすことはできない

個人の名前でだすのならばいい

事務局として、運営委員会から質問状を受け取ることは出来ない、

仮に受け取ったとしてもパートナーシップ策定委員会第1部会に渡すことはできない

またパートナーシップ策定委員会の事務局として受け取ることはできない

という発言があり、この発言を巡って議論になった

(2)他の運営委員会の出席者は

質問状をだすことは第6回の運営委員会で多数決で決定されたことである

運営委員会の代表として半田委員をパートナーシップ策定委員会第1部会に送っている。その半田委員がパートナーシップ策定委員会第1部会の進め方に抗議して辞任したのであるから、その理由を質すことは正当性がある

権限論とは無関係である

サポートセンターの運営はパートナーシップ条例とも深く関わっており、2つの委員会でお互い意見交換することは意味がある

委員会が違うから「おかしいのではないか」ということがあっても質問もしない、してはいけないというのは縦割り行政の弊害である

質問状を運営委員会の事務局が受け取らない、渡さないということを実際に行うならば、それはまた問題ではないか

(3)結果として質問状は、どういう結果になろうとも、それはそれで新しい事実や課題の発見となるので、第6回運営委員会の決議どおり実行することとなった

(4)パートナーシップ策定委員会第1部会長への質問状の内容検討

議題3：事務局提案のすまいるクラブ申請の早期予約の件、不足情報の補足と予算書の訂正を条件に認める

確認されたこと

1. パートナーシップ策定委員会第1部会長への質問状は提出する

2. パートナーシップ策定委員会第1部会長への質問状の内容を決定

3. 事務局提案のすまいるクラブ申請の早期予約の件、不足情報の補足と予算書の訂正を条件に認める

次回運営委員会

1. 日時：10月4日(火)

18:30~20:30

2. 担当運営委員：金子、三沢委員

3. 繰越議題

運営委員の募集

サテライト構想

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第9号）

発行日：2005年10月04日

（作成者）運営委員 三沢和弘

第8回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年10月4日（水）18：30から21：00

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

出席者：（委員）金子・楠本・三沢・星野・川瀬・岩橋 （コーディネーター）桑田 （事務局）岩崎

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：（運営委員）金子

議事記録：（運営委員）三沢

議題1：サポートセンターからの報告

議題2：コーディネーター会議報告

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の状況報告

議題4：個別計画進捗状況報告

議題5：条例案策定委員会第一部長への質問状

議題6：まつど市民活動サポートセンター基本構想案の発表会

議題7：広報部会から報告

議題8：運営委員の募集

議題9：サテライト構想のあり方進め方

議題10：その他

議事の概要

議題1：サポートセンターからの報告

早期予約について

- ・つながり楽集会 了承

- ・スマイルクラブ資料補足説明

議題2：コーディネーター会議報告

- ・コーディネーター会議は今週開催の予定

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の状況報告

- ・ジム・ディアーズ氏講演の説明。11月5日（土）午後2時から

- ・講演内容は、「シアトル市パートナーシップまちづくりの現場から」

議題4：個別計画進捗状況報告

- ・NPOマネジメント講座 企画を運営委員会でも検討できるように、もう少し早い段階でこの企画を出して欲しい

- ・シニア講座「出番だ！」の説明

議題5：条例案策定委員会第一部長への質問状

- ・質問状は10月4日付けでボランティア担当室を通じて第一部長へ渡す。

- ・事務局から渡すことに、役所内部での問題があるということになれば、その処理については再度報告する。

議題6：まつど市民サポートセンター基本構想（案）発表会

- ・日時：10月30日（日）13時から16時

1）発表会の内容について

- ・完全民営化と公設民営化（指定管理者制導入）との区別を明確にすべき。

- ・基本構想案は指定管理者制ではできない構想案も含まれる。

- ・今回の基本構想発表会では、直営、指定管理者制、民営の議論ではなく、将来に向けてのサポートセンターの自立ということをメインのテーマとする。

- ・従って、チラシのコピーも「公設民営化に向けて」などの文言は削除し、「自立したサポートセンターはどう創るのか」をメインキャッチとする。

- ・発表会は市民フォーラムとして運営委員会からの基本構想の発表とワークショップの2本立てとする。

- ・対象は利用者団体だけではなく、一般市民の参加を期待したい。

2）ワークショップについて

- ・ワークショップの内容は企画部会で検討し、その案を10月18日の民営化特別部会で決定する。

議題7：広報部会からの報告

- ・ホームページ新設「運営委員のつづやき」の運用説明

- ・10月より運用開始。10月岩橋委員からスタート。その後の順序は、金子委員、半田委員、川瀬委員、三沢委員、楠本委員、星野委員。3月末までに全委員を掲載する。

確認されたこと

1. 条例策定委員会第一部長への質問状はボランティア担当室を通じて渡す。

2. 基本構想の発表会は10月30日13時から16時

3. 内容は運営委員からの基本構想発表とワークショップの2本立て

4. ワークショップの内容については企画部会で案を出し、それを元に10月18日の民営化特別部会で決定する。

5. ホームページ「運営委員のつづやき」掲載順序の決定

6. 運営委員の公募についての継続検討

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第9号）

発行日：2005年10月04日

（作成者）運営委員 三沢和弘

連絡事項

次回運営委員会
11月1日（火）18：30から
進行：楠本委員、川瀬委員

議事の概要

議題8：運営委員の募集

- ・運営準備会委員の引継ぎで、岩橋、川瀬委員の任期は来年3月までである。
- ・公募委員の任期は2年で、3期まで継続可能となっている。
- ・再任ということも考えられるが、委員には新しい血を入れることも大切。
- ・新しい委員を募集するにしても、どのような役割を担うための委員なのか明確にしなければ集まらない
- ・前回の公募では3名来たが、会議の回数や内容を説明したら出来ないということだった。
- ・サポートセンターが指定管理者制度を導入ということになれば、運営委員会も来期1年の任期になる。そのことも考慮したい。
- ・運営委員2年間の反省を踏まえ、会議の回数、内容などを検討する。運営委員の公募については引き続き討議する。

議題9：「サテライト構想」のあり方、進め方

- ・次回運営委員会にて検討。

議題10：その他

- ・特別な検討事項なし

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第9号）

発行日：2005年11月07日

（作成者）運営委員 川瀬裕思

第9回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年11月1日（火）18:30から21:00

場所：まつど市民活動サポートセンター第1会議室

出席者：（委員）岩橋・金子・楠本・三沢・星野・川瀬 （コーディネーター）中村 （事務局/板書）伊原

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：（運営委員）楠本

議事記録：（運営委員）川瀬

議題1：サポートセンターからの報告

議題2：コーディネーター会議の概要報告

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

議題4：個別計画進捗状況報告

議題5：利用者懇談会の報告

議題6：運営委員会広報誌第2号発行について

議題7：サポートセンター基本構想発表会のまとめ方について

議題8：パートナーシップ条例案策定委員会第1部会長への質問状の件

議題9：運営委員の募集について

議題10：サテライト構想のあり方進め方

議題11：その他

確認されたこと

1. 物品提供受入のルールを企画部会で検討する
2. 作品展示に対するルール作りも必要
3. 利用者懇談会の報告書を作成し、利用者にフィードバックする
4. サポートセンター基本構想についてニュースレターとの合併号にて報告する（広報部会でドラフト作成）
5. サポートセンター基本構想発表会の取り纏めを11/15の民営化特別部会で実施する
6. パートナーシップ条例案策定委員会第1部会長からの回答書への対応を11/15の臨時運営委員会で検討する
7. 運営委員を公募する方向で調整する

議事の概要

議題1：サポートセンターからの報告

物品提供について

- ・個人からの提供によりオフィス家具などが寄贈された
- ・今後の受入ルールの策定が必要 企画部会で審議担当

作品展示について

- ・書道クラブより作品展示の依頼（場所は大会議室前の廊下）
施設管理上の問題点（廊下に展示ボードを設置）より非承諾
- ・作品展示についてルール作りが必要

議題2：コーディネーター会議の概要報告

- ・各担当企画の進捗状況の把握と確認
- ・日常業務の内容の確認
- ・AED（自動体外式除細動器）講習に参加

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

パートナーシップ条例案策定委員会（第11回）次より

- ・パートナーシップ条例骨子案 10月6日の説明
- ・パートナーシップ協議会の設置について
- ・パートナーシップ協議会事務局の位置付けについて
- ・社会資源持ちよりバンクについて

議題4：個別計画進捗状況報告

「シニア講座 De Banda! 出番だ!」について

- ・11名の参加申し込みがあった
- 「NPO・市民活動見本市」について
- ・団体説明会の開催 11月14日10時～ 11月15日18時～
- ・体験プログラムの充実・講演会と参加型メニュー

議題5：利用者懇談会の報告

- ・参加者からの意見を交流部会議事メモに箇条書きに纏めた
- ・上記意見の取り纏めを参加者へ報告
- ・報告は、HP やニュースレターを活用する、更に受付での手渡しや掲示板へ掲示する

議題6：運営委員会広報誌第2号発行について

- ・ニュースレターとの合併号にて2ページ（A4）相当とする
- ・広報部会でドラフトを作成する 楠本委員担当
- ・文字を少なく、写真などを掲載し見やすい紙面づくりをする

議題7：サポートセンター基本構想発表会のまとめ方について

- ・パブリックコメントは原文のまま掲載
- ・ワークショップの意見は班毎に取り纏める
- ・基本構想をHPの資料室にアップする
早急に10月30日配布版をアップする
更に完成版を作成後にアップする

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第9号）

発行日：2005年11月07日

（作成者）運営委員 川瀬裕思

連絡事項

次回運営委員会
11月15日(火)15:00から
進行：楠本委員、川瀬委員

議事の概要

議題8：パートナーシップ条例案策定委員会第1部会長への質問状の件

- ・ 回答書にどう対応するのか
説明しなければいけない点は説明すべき
質問の質問は、避けるべき
運営委員会として、どう対応するのか明確にする。
 - 1、 第1部会へ継続参加するのか
 - 2、 半田委員に復帰してもらうか
 - 3、 他の委員を派遣するか11/15の臨時運営委員会で討議

議題9：運営委員の募集について

- ・ 指定管理者制度導入により任期が1年になることを鑑み、追加公募か現委員の任期を延長するかを検討
- ・ 任期にかかわらず公募はすべき
- ・ 公募する場合は、2/1の広報で告知する
- ・ 前回の公募結果0人を反省し、対策を考える

議題10：サテライト構想のあり方進め方

- ・ 次回以降に討議

議題11：その他

- ・ 特別な検討事項なし

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（平成 17 年度第 10 回臨時会）

発行日：2005 年 12 月 7 日(確定版)

(作成者)半田勝利(運営委員)

平成 17 年度第 10 回(臨時) まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成 17 年 11 月 15 日(火) 15:00~16:00

場所：まつど市民活動サポートセンター 第 1 会議室

出席者：(運営委員)岩橋・金子・星野・楠本・半田 (コーディネーター)桑田 (事務局)岩崎

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：楠本

議事記録：半田

板書：岩崎

議題 1：条例案策定委員会第 1 部会への参加について

議題 2：運営委員の募集について

議題 3：NPO マネジメント講座についての報告

確認されたこと

* 第 1 部会長からの回答書に対して、岩橋会長より文書で持って回答する。
(半田委員を三沢委員に変更すること)

* 第 1 部会への参加については、半田委員に変わって三沢委員を選出し、参加いただくこととした。

連絡事項

次回運営委員会

12月6日(火) 18:30 から開催

場所

サポートセンター第 2 会議室

議事の概要

議題 1：条例案策定委員会第 1 部会への参加について

- 運営委員会としては、半田委員を引き続きバックアップすることを説明を持って回答することでよい。回答書に 1 つ 1 つ回答することはいわずに事態を複雑にするだけである。
- 半田委員が辞退する場合は、他の委員を選出することを文書でもって回答する。
- 運営委員会からの申し入れで参加していることであり、代理を出さなければいけない。

- ・ 条例案策定委員会は後 3 回予定されている。第 1 部会が開催されるかどうかは不明であるが、運営委員会としては、三沢委員の了解を得て、三沢委員を新たに選出することとした。
- ・ 本件は、岩橋会長が文書で持って回答する。

議題 2：運営委員の募集について

- ・ 来年度委員の公募については、2/1 広報発表で、任期は 1 年の変則形が考えられるが、現在検討中であり、行政の方針を詰めさせていただく。
(星野委員)

- 任期は 2 年の設定であり、後 1 年の任期では公募になじむかどうか。
- 公募しないで 5 人体制も考えられる。
- 市民の意見を反映するための委員会であるから、仮に 1 年の任期になっても公募することを前回決めている。

議題 3：NPO マネジメント講座についての報告

- ・ 予定していた川北講師と、ワークショップの進め方で折り合いがつかないため、川北講師より別の講師 2 名を紹介されている。
- ・ 対象と狙い・コンセプトを明確にして、改めて別の講師を捜すことにする。

以上

平成 年 月 日

まつど市民活動サポートセンター運営委員会 会長

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第11号）

発行日：2005年12月24日

（作成者）運営委員 岩橋秀高

第11回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成17年12月06日（水）18:30から20:30

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

出席者：（委員）金子・楠本・三沢・星野・半田・岩橋（コーディネーター）小山、（事務局）なし 傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：（運営委員）星野

議事記録：（運営委員）岩橋

議題1：確認事項

議題2：定例報告

(1) サポートセンターからの報告

(2) コーディネーター会議の報告

議題3：個別計画進捗状況検討

議題4：サポートセンター基本構想完成版の纏め方について

議題5：利用者懇談会の報告

議題6：サポート資源提供システム、物品提供の受け入れについて

議題7：指定管理者導入の際のタイムスケジュールについて

議題8：運営委員会の今後について

確認されたこと

- 見本市の事業名の使い方については第3回見本市実行委員会の自主性に委ねる
- サポートセンター基本構想完成版の纏め12月20日民営化特別部会で決定する。決定後ホームページで配信する
- サポート資源提供システム、物品提供の受け入れについて検討を進める
そのためせんだい・みやぎNPOセンターを見学する
- 12月20日の民営化特別部会は16:30～18:00とする

次回運営委員会議題

- 運営委員会の今後について
- サポート資源提供システム、物品提供の受け入れについて
- 運営委員会開催日と担当は
1月10日、担当：金子、三沢
2月7日、担当：楠本、川瀬
3月7日、担当：半田、岩橋

議事の概要

議事に先立ち星野室長から三沢和弘委員に市長の「松戸市パートナーシップ策定委員会第1部会委員」の委嘱状が手渡された。

議題1：確認と報告事項

(1) 本日の議事進行：進行星野委員 議事録岩橋委員

議題2：定例報告

(1) サポートセンターからの報告

ミーティングコーナーの天井の崩落について（星野室長）

水管が天井にありそこから漏水12月7日に修繕予定

(2) コーディネーター会議の報告（小山） 特になし

議題3：個別計画進捗状況～別途資料に基づき説明あり（小山）

(1) シニア講座「Debanda! 出番だ！」

(2) NPOマネジメント講座「松戸の協働事業必勝講座～入門編」

(3) Let's 体験! 2005 ふりかえり集配布

(4) 見本市に関して、

小山コーディネーターより「リーフレットで事業名が「第3回NPO市民活動見本市」となっている件について、正式事業名は「選べる！見て・聞いて・NPO・市民活動見本市」なのでそれを用いるように運営委員会から見本市実行委員会へ申し入れてもらいたい」旨の提案があった。

第3回見本市実行委員会での討議のプロセスなど議論

結論として「本件は運営委員会で決定すべきことではなく、第3回見本市実行委員会の自主性に委ねるべきである」こと、「コーディネーターからどこかに入れて欲しいという強い要望が出ている」ことを金子委員より第3回見本市実行委員会に伝える。

議題4：サポートセンター基本構想完成版の纏め方について

12月11日担当者はメールでワークショップの議事録とまとめを運営委員会各位に配信 12月20日民営化特別部会で決定する。

決定後サポートセンターのホームページに掲示する。

議題5：利用者懇談会の報告（金子）

第6回および7回交流部会議事メモにより説明、

要約版をニュースレターで流す

議題6：サポート資源提供システム、物品提供の受け入れについて（半田）

(1) 基本構想推進策のひとつとして取り組みたい。

資料：せんだい・みやぎNPOセンター「サポート資源提供システム」

(2) せんだい・みやぎを見学しよう。予算について事務局で検討する。

(3) 企画部会で上記を詰めていく

議題7：指定管理者導入の際のタイムスケジュールについて（星野）

(1) 別紙「まつど市民活動サポートセンターの指定管理制度移行スケジュール（案）」にて「17年2月募集要項作成から19年4月指定管理開始までの流れ」を説明

議題8：運営委員会の今後について事務局より説明（星野）

(1) 上記スケジュール（案）では運営委員会は18年3月解散となっている。

(2) 運営委員会については、新規募集せず現状運営委員会で18年3月までゆく選択肢も検討中旨の報告。

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第12号）

発行日：2006年01月15日

（作成者）運営委員 金子雄二

第12回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成18年01月10日（火）18：30から20：40

場所：まつど市民活動サポートセンター第2会議室

出席者：（委員）岩橋・半田・楠本・星野・三沢・金子（コーディネーター）山崎、（事務局）岩崎、傍聴者：1名

会議の流れ

議事進行：（運営委員）三沢

議事記録：（運営委員）金子

議題1：確認事項

議題2：定例報告

(1) コーディネーター会議の報告

議題3：個別計画進捗状況

議題4：パートナーシップ条例策定委員会の報告

議題5：これからサポートセンターの事業計画について

議題6：運営委員会の今後について

議題7：サポート資源提供システム（仙台みやぎ）の研究視察について

議題8：その他

確認されたこと

1. これからのサポートセンター（2006年度）事業計画については、18年度事業方針は、企画部が原案を纏め運営委員会で決定する（3月末）
2. 運営委員会の今後については、各委員の意思表示に従った行政内部の方針を検討して、運営委員会に報告決定する。
3. サポート資源提供システム（仙台みやぎ）の研究視察には、金子、半田、星野委員が参加する。
4. サポートセンター基本構想の市長説明は、2月27日（月）13:30、市民サロンにて実施する予定。

次回運営委員会議題

1. 運営委員会の今後について
2. サポート資源提供システム（仙台みやぎ）の研究視察の概要報告
3. 今後の運営委員会開催日と担当
2月7日、担当：楠本、川瀬
3月7日、担当：半田、岩橋

議事の概要

議題1：確認事項

(1) 本日の議事進行、進行：三沢委員 議事録：金子委員

議題2：定例報告（山崎）

(1) コーディネーター会議の報告

多目的ホールのロッカー利用に関して、今年3月に公募し、4月から新規利用者への貸し出しを予定（交流部会・金子補足説明）

議題3：個別計画進捗状況～別途資料に基づき説明あり（山崎）

(1) NPO市民活動見本市関係、参加団体を確定（42団体）、1月12日実行委員会、20日団体説明会、（広報関係）1月15日社協だより、2月15日市広報に掲載される予定

(2) 松戸的協働事業必勝講座、2月7日17:30から開催予定（講師、矢代氏）

(3) 税務相談、2月8日に開催予定

議題4：パートナーシップ条例策定委員会の報告（星野）

(1) 策定委員会と事務局では、対立課題（協議会が附属機関なのか、市民フォーラムの提案と位置付け）がある。

(2) 大和市方式を調査した結果、附属機関ではなく市と役割協定を締結している。その意味で実態は、附属機関として機能している。

議題5：これからのサポートセンター（2006年度）事業計画について（山崎）

(1) 指定管理者制度を踏まえて18年度は、どう行動するか

市民のエンパワーメントとして、次世代育成支援事業（Let's体験）と地域活性化事業（DeBanda! 出番だ！）

NPOのエンパワーメントとして、NPOマネジメント講座（松戸的協働事業必勝講座）と協働事業推進事業（協働提案モデル事業の実施、選べる！見て聞いてNPO・市民活動見本市）

(2) 特に見本市開催について、実行委員会形式等色々な運営形態が考えられるが、指定管理者の事業の一部となるよう検討していく。

(3) 18年度事業方針は、企画部が原案を纏め運営委員会で決定する（3月末）

(4) 協働事業について、今年度評価を実施するスケジュールを明記する。

議題6：運営委員会の今後について（星野）

(1) 18年度は現委員で継続したい。従って、出席委員の意見を確認したい。

・岩橋：3月末まで、・金子：1年間なら継続、楠本：3月末まで、・半田：1年間なら継続、三沢：1年間なら継続、（川瀬：星野委員が個別確認する）

(2) 公募すべきであると同時に女性委員を入れるべきとの意見があった。

(3) 行政内部では4人で継続するのか、追加公募するのか早急に検討する。

議題7：サポート資源提供システム（仙台みやぎ）の研究視察について（星野）

(1) 仙台みやぎでは、人材・機材等の社会資源の持ち寄りバンク機能をサポート資源提供システム（NPO法人）として持っているのを参考になる。

(2) 民営化に向けた調査研究のため是非視察に行きたい。

(3) 金子委員と半田委員が参加し、行政から星野委員も参加する。

議題8：その他（星野）

(1) サポートセンター基本構想の市長説明は、2月27日（月）13:30、市民サロンにて実施する予定。

（以上）

まつど市民活動サポートセンター運営委員会通信（第13号）

発行日：2006年2月24日(確定版)

(作成者) 運営委員 半田勝利

第13回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成18年2月7日(火) 16:00~17:30

場所：まつど市民活動サポートセンター第1会議室

出席者：(委員) 金子・三沢・楠本・星野・半田 (コーディネーター) 桑田 (事務局) 伊原 傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：楠本 板書：伊原

議事記録：半田

議題1：サポートセンターからの報告

議題2：パートナーシップ条例案策定委員会の報告

議題3：個別計画進捗状況

議題4：運営委員会の今後について

議題5：仙台視察概要報告

議題6：見本市での役割分担

議題7：協働提案事業のスケジュールについて

確認されたこと

1. 運営委員会の今後については、現行体制で1年継続する。各委員の意思表示に従って再委嘱がなされ、新たな公募はしない。
2. 見本市での運営委員の役割分担については、コーディネーターの方で必要な役割時間帯を調整する。
3. コーディネーター募集の件は、事前に運営委員会で報告する事項であること。

次回運営委員会

日時：3/7(火) 18:30~20:30

(於) サポートセンター第1会議室

担当：川瀬、岩橋

議題：

1. 平成18年度事業計画について
2. 協働提案事業の進捗について
3. サポート資源提供システムの構築に向けて

議事の概要

議題1：サポートセンターからの報告事項(桑田)

- (1) 年度当初の公用について概要報告があり、了承された。
 - ・歌い方教室 ・ふれあい会食会 ・千葉県生涯大学校 ・集団健(検) 診会場
- (2) 早期予約はなし
- (3) 基本構想は庁内承認を終え、サポートセンターHPで閲覧可能とした。

議題2：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告(星野)

- ・ 委員会の次第により概要を説明
- ・ 委員会と事務局の考え方の違いはそのまま、委員会の考え方で最終答申する方向
- ・ 2/9(木)の委員会で最終答申の提言が決まる予定
- ・ 市民フォーラムは30名の参加があり、パブリックコメントは4件あった。

➤ 市民会議の必要性は双方とも一致しているが、付属機関か否かの形態で平行線。代表制の裏付けが問題。

➤ 裏付けがなければ、市民と言いながら一部市民の市民会議になりかねない。付属機関にしないのなら、行政に頼らず、自力で立ち上げるべき。

➤ 社会資源システムについても、民でやってこそ価値がある。

議題3：個別計画進捗状況報告(桑田)

- (1) NPO 市民活動見本市、2/25(土)、参加団体は42団体、63プログラム。
1月20日団体説明会で、機械搬入や駐車場が議論された。
 - ・10台+福祉車両分 ・3名交代で誘導管理
 - ・参加人数とアンケートは入り口のシールで把握する。
- (2) 松戸的協働事業必勝講座、2月7日 17:30~一般26名が参加申込み。
- (3) 税務相談、2月8日、申込みは29名。

議題4：運営委員会の今後について(星野)

- ・ 新たな公募はしない。
- ・ 現行体制で、1年のみ再委嘱する。
- ・ 開催日時については、各委員に合わせて今後の検討とする。

議題5：仙台視察概要報告(金子)

金子委員作成の視察報告書にもとづき報告あり。別途、仙台視察報告の資料関係は民営化特別部会で配布する。

(1) 仙台市市民活動サポートセンター

- ・ 平成11年センター開所、3者の公開コンペで仙台・みやぎNPOセンターに運営委託を開始。指定管理者制度導入に際しては、随意契約で継続。(平成19年度には公募予定)
- ・ センターは常勤10名、非常勤5名、管理者2名の運営体制であるが、人件費アップの要請が課題で、今年度は多少アップした。(人件費の査定が分かれば)
- ・ 施設は賃貸で、耐震問題で移転が決定している。(駅近く、より便利な場所)

議事の概要(続)

- ・ 施設はしっかりしており、移転によってさらに良くなり、比較して予算的には恵まれている？
- ・ 研修講座開設の講師派遣などで市と運営委託者双方共にメリットを受けている。
- ・ 市民活動に対する市民の意識は問題で、協働などは未知数のように思われる。

(2) せんだい・みやぎ NPO センター

- ・ 事業予算としては、半分が市民活動サポートセンターの運営事業である。そして、委託・講師派遣事業、サポート資源提供システム事業などで、総事業予算は約1億円。
- ・ 委託事業や講師派遣などを行っている半面、NPO センターとしての人材育成は、これからの課題で、コーディネーター業務についても同様の問題がある。
- ・ サポート資源提供システムについては、物品提供と資金ファンドのシステムはあるが、人材はまだこれからの問題。
- ・ 本体ファンドとして「みんなファンド」があり、県からの助成で「みやぎ NPO 夢ファンド」などの冠ファンドを複数使い分けている。(それぞれに運営委員会・運用委員会がある。)

➤ 限られた時間での視察では、いまひとつ内容が不詳なところが多い。

議題6：見本市での役割分担について(三沢)

- ・ 駐車場係、設営(2/24、15:00~)、撤去(2/25、16:00~)に人手が必要。
- ・ コーディネーターが参加可能時間を集約して調整する。(桑田)

議題7：協働提案事業のスケジュールについて(星野)

- ・ 審査会を連休をはずした以外については、昨年とほぼ同じスケジュールで実施する。
- ・ 昨年実施の募集要領(資料NO.14)について、今回の公募に際し意見があれば2/21(火)の民営化特別部会までにいただき、民営化特別部会で討議する。

以 上

第14回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

発行日：2006年3月7日

(作成者) 星野宏昭

第14回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成18年3月7日(火)18:30から20:50

場所：まつど市民活動サポートセンター 第2会議室

出席者：(委員) 楠本・岩橋・半田・川瀬・金子・三沢・星野(コーディネーター) 中村(事務局) 岩崎

傍聴者：1名

会議の流れ

議事進行：川瀬

議事記録：星野

議題1：サポートセンターからの報告

議題2：コーディネーター会議の概要報告

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の報告

議題4：個別計画進捗状況報告

議題5：平成18年度事業計画について

議題6：協働提案事業の進捗について

議題7：サポート資源提供システムの構築に向けて

議題8：その他

議事の概要

議題1：サポートセンターからの報告(中村)

- ・ 矢切地区社会福祉協議会から「矢切地区ふれあい広場」についての早期予約について了承された。

議題2：コーディネーター会議の概要報告

1 事業計画

(1) 18年度 Lets 体験概要説明

- ・ 団体募集4月1日から、学生募集は6月1日から開始
- ・ オリエンテーションは7月15日予定、講師は未定
- ・ 企画・広報等に大学生の参加するプログラムにする。

(2) DeBanda

- ・ 9月~10月予定、講師はエコ・コミュニケーションの森 良氏を予定
- ・ 何かをしたいと考えている人の受け皿づくりとして、交流サロン風の車座 DeBanda を予定

(3) 見本市

- ・ どのような市民がどの位増えているのか等事業報告書を作成していて、3月末に最終実行委員会を予定している。

(4) NPO マネージメント講座

- ・ 時間・プログラム検討中

(5) 協働提案事業

- ・ 高齢者うんどう習慣化教室(木村) パソコン無料相談会(山崎) コミュニケーション能力講座(桑田) 各担当が報告書作成中

2 ロッカー等の整理

3 情報ファイル

- ・ せんだい・みやぎを見習い、情報のファイリングの体系化を進めるべき、ファイリングできなければ民営化も難しい。

議題3：パートナーシップ条例案策定委員会の情報報告

- ・ 2月9日に第15回策定委員会が開催され、条例案の委員会としての公定作業がなされ、委員会として最善のものを策定したとして、2月15日に最終提言書を提出した。

- ・ 条例案の特長として、パートナーシップ事業は目玉の一つですが、協働協議会を二つに分けて審査会と市民会議・運営委員会とし、審査会は附属機関、市民会議は市民が開催し、市民の運営によるが、委員会と市長がパートナーシップ協定を結びそれぞれの役割、責務を保障するとしている。

- ・ またパートナーシップ事業の財源確保として基金を設置することやこの事業に資源を提供する社会資源持ち寄りバンクも特長的

- ・ 成長するシステムとして条例の3年ごとの見直し規定もある。

- ・ 答申を基にして行政案を策定し、18年度中に議会へ上程予定

- ・ サポートセンターの位置付けがはっきりしていない。

- ・ 第8条の基本政策に、市民活動の支援及び発展に必要な拠点施設を充実するとあるが、この説明欄にサポートセンター等の施設の機能充実がうたわれている。

- ・ 小さい政府でなく、行政の負担増で、行財政改革に反する。スクラップア

確認された事項

- ・ 協働提案事業審査会の委員就任交渉は、ボランティア担当室が実施する。
- ・ 3月30日に臨時会を開催する。

次回の議題

議題：まつど市民活動サポートセンター運営委員会のふりかえり

連絡事項

- ・ 次回の運営委員は、3月30日(木)午後4時から、進行・岩橋委員、記録・三沢委員

議事の概要

ンドビルドでないといけない。

- ・パートナーシップ条例が施行され、パートナーシップが進めば仕組みの見直し、例えば委託や補助金の見直しがなされるのではないかと。
- ・基金は条例本体の中に何故入れないのか。
- ・基金条例は基金条例として整理していくという松戸市の方針でもあるし、規則要綱も含めてパートナーシップ関連グループ法令としてセットで提案される。

議題4：個別計画進捗状況報告

(1) 松戸的協働事業必勝講座

- ・大変好評であったが、時間が不足していた。何が問題なのか詰めないといけない。
- ・中級も企画したい。再度企画しないと自分のものにならない。
- ・この手法をマスターすれば料金ももらえる内容である。

(2) NPO法人のための税の基礎知識学習会

- ・鎌ヶ谷市、流山市、松戸市の3市の共同事業で、今回は松戸市が中心で、コーディネーターも参加して実施した。

(3) 第3回選べる 見て 聞いて NPO・市民活動見本市

- ・参加者500名と非常に多かった。アンケートやパンフレットの残数で確認
- ・自分探しの見本市というテーマがフィットしたことやミニコミ誌への事前広報が効を奏した。

5 平成18年度年間事業計画について

- ・基本構想の3つの指針、5つの柱に沿って18年度事業計画をすべき。
- ・18年度はこれに沿って事業化することを確認

6 協働提案事業の進捗について

- ・条例案策定委員会からの答申にあるパートナーシップ事業の実施シミュレーション的意義付けもある。
- ・2回目であり、サポートセンターのミッションである市民活動支援やネットワークづくりの視点を入れたものやスタートアップの提案事業を期待する。
- ・提案されてくるものは、まだ未熟なものもあるので、それを膨らましていくインキュベーションに力をいれたい。
- ・今年度使用したマトリックスは運営委員会側の内部資料で、一人歩きすると困るので、提供資源の一覧を作成して添付したい。
- ・審査会のメンバーは今年度とほぼ一緒に予定しているが、聖徳大学からの委員も検討。
- ・公募説明会を4月7日から4月10日に周知期間が短いことから変更

7 サポート資源提供システムの構築に向けて

- ・提供システムを考える市民フォーラムの開催を18年度の到達点としてセンターが仕掛けていってはどうか。
- ・せんだい・みやぎのように、あくまで市民が行うシステムを前提に、運営委員を含めてセンターがフォーラム立ち上げを検討することで了解を得た。

8 その他

- ・川瀬委員からセンターコーディネーターが立ち上げるNPOの代表理事となるが、指定管理者に応募する予定なので、民営化部会への出席を辞退したい旨の申し出があった。
- ・今年度の振り返りをしてけじめをつけたいので3月30日に臨時会を開催する。

第15回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

発行日：2006年4月20日(確定版)

(作成者)半田勝利

第15回まつど市民活動サポートセンター運営委員会

日時：平成18年3月30日(木)16:00~17:30

場所：女性センター 多目的室1

出席者：(委員)楠本・岩橋・川瀬・金子・三沢・星野・半田 (コーディネーター)木村(事務局)小菅、岩崎、伊原

傍聴者：なし

会議の流れ

議事進行：星野 板書：伊原

議事記録：半田

議題1：運営委員としての振り返り

議題2：その他

議事の概要

議題1：運営委員としての振り返り

参考資料として『運営委員のつづやき』をもとに、2年間の活動を振り返り、今後の課題などについて各委員の思いを発表し、意見交換をいたしました。

(岩橋)

- ・ 準備委員会から携わってきて、市民公募委員への心配もあったが、現運営委員会の成果には、予想以上の活動が出来たとの思いがある。
- ・ 『見本市』への一般の方々の参加状況を一つの尺度に見てきたが、評価・手ごたえとしてはまだまだかと思っている。
- ・ 参加団体の主体性・活動は充実してきたが、協働まではなかなか進んでいない。まだまだ人材不足で、市民が参画する仕組みが弱い。もう一ひねりのアイデアが必要。
- ・ 運営委員としては、働く委員としてハードであったが、市民代表の立場として働けたかどうかには気持ちが残る。
- ・ 市民活動は、定年になったからどうではなく、定年前からの参加機会が必要。

- 市民の意識調査では、H13年の27%からH17年は35%に市民活動への参加経験・参加意識は増加。
- サテライト構想のモデル形で、見本市の地域展開、地域で商店会・町会なども巻き込んだ事業が出来るとよい。

(三沢)

- ・ 初めての経験でどれほど役に立ったのかは疑問。
- ・ あるべき論ではなく、目に見える事業をやるべき。(言わばなし、やりっぱなしの机上の空論も多かった。)
- ・ 1年目の見本市実行委員会で実際にプロセスに関わることで、主体性を意識するようになった。

- 『サポート資源提供システム』の構築に向けて、取っ掛かりのフォーラム開催を目指している。
- サポートセンターとしての機能は、開設して2年余に過ぎない段階としては独自の事業展開などずいぶん確立されてきている。基盤づくりには寄与できたのでは？

(金子)

- ・ 残念なことが2点。1つはパートナーシップ条例案策定委員会の方向性の問題であり、もう1点は、運営委員の補充採用が出来なかったこと。
- ・ 今後は『基本構想』をもとに、年1回はサポートセンターの評価をすべき。
- ・ いろいろやってきたが、運営委員としては2歩前進1歩後退というところ。
- ・ 運営委員としてのあるべき姿がまだ見えない。運営委員会の活動をもっと外部に見せる努力が必要。

確認された事項

特にありません

連絡事項

次回、平成18年度第1回の運営委員会

・4月21日(金)午後3時から

(於)女性センター研修室

議事の概要

- ・ サポートセンターとしては、地域密着型の事業を自ら展開すること、打って出ていくことも必要。
- 運営委員としては裏方でよいと思う。サポートセンターが目的を発揮しているかどうか問題。サポートセンターを第3者的にみて、十分な機能を果たしており、この点で運営委員会としても寄与してきたのでは。
- コーディネーターの役割が大きい。他市との比較で見てもサポートセンターとしての機能は、充分高いレベルにある。
- 最初の準備委員会の構想が良かった。

(楠本)

- ・ パートナースHIP検討委員会のサポートセンター構想・提言に感動。
- ・ 運営委員としては、ポテンシャルの高い方々の中で、アウトプットよりもインプットの方が多かったように思う。

(半田)

- ・ 運営委員としては、予想以上に忙しかった。「頭」を使う仕事にもなって、自分の経験が多少でも活かされたかな、とは思っている。
- ・ 市民活動家・専門家には少し異質なものも感じている。自身としては、ボランティアとは何かがいまだに理解できていない。
- ・ 例えば、『サポート資源提供システム』の構築に向けての取組みなど、何か成果に残ることが出来れば理想的。

(星野)

- ・ 一般的な審議会と違って、行政委員として対等の議論が出来る委員会でも良かった。
- ・ 議事録や資料の作成も委員で作るなど、この運営委員会は画期的であり、これだけ主体性のある委員会は他に無いと思う。
- ・ 最初はギクシャクしていたが、段々と好い関係に発展できた。(パートナーシップの見本になる?)

(川瀬)

- ・ パートナースHIP検討委員会からの継続で、一区切りがついた。
- ・ 公募のプロセスとその後の活動を見ても心強い。
- ・ 後半では仕事の都合もあって、十分な参加ができない面もあった。
- ・ コーディネーター中心のセンター運営体制が出来てきたことはすごいことだと思う。
- ・ 独自の事業も定着化しているが、まだまだ種をまいている段階であり、多くの市民が関る仕組みを作って欲しい。

議題2：その他

下記報告書を受領・承認しました。

- ・ 『Let's 体験2005 報告書』
- ・ 『DeBanda! 出番だ! 2005 事業報告書』

以上